

完了報告書

つくりだす助成金

令和3年4月～令和5年3月 2年間

企画名 「 みんなの居場所プロジェクト 大きな樹の下のみんなのおうち 」
特定非営利活動法人ビーイング
理事長 片岡 美幸

ビーイングに確たる居場所はありませんでした。

引きこもり支援をはじめて5年が過ぎると確たる居場所が必要となってきました。

居場所＝ 安心安全の場・来たいときに寄れる場・社会参加のためのリカバリーの場
自立支援の場・お腹を満たす場・癒しの場・家族が集える場・ストレングスを見出す場・リフレッシュの場・コミュニティーの場

居場所の役割は壮大で、そんな居場所をつくるには、マンパワー、資金調達、物件、労力・サポーター確保など様々な課題が山積しておりました。

そんな中、赤い羽根のつくりだす助成金の情報が目にはいり、ビーイング立ち上げの際からお世話になっていたご縁があり、企画書制作に助言、ご指導をいただき、曖昧だったイメージを確たる形にし、みんなの居場所プロジェクトの構想が構築されました。

「みんなの居場所プロジェクト 大きな樹の下のみんなのおうち」は
実施イメージを3年間の実施ビジョンとして掲げました。

- ・ 協働して作り出す
- ・ 安心、安全の居場所
- ・ 生産型の支援
- ・ 地域住民との交流

「地域のイベント・ボランティア参加」

○ 大きな樹の下でワークショップ

令和3年10月31日にはオープニングイベントを開催。

コロナ禍の中でしたが、

市長様、社協会長様、県議様、共同募金会、NPO・ボランティアサロンぐんま、安中市、県社協、安中社協、渋川社協、安中・渋川の民生委員さんなど

多くの方がご来所してくださり、華を添えてくださいました。
また、受益者、家族、地域の方々など多くの方々も、参加してくださいました。

参加数 約200人

○ こどもカフェ

2021年12月には居場所周知のため子供の居場所イベントを開催。
新規受益者2名が表面化しました。小さい子供の親子連れも参加。
食事とパソコン、電気ピアノの無料レッスンを受け楽しい時間を過ごせた
ようです。

参加者 8人

○ ボランティア参加

令和4年9月 安中市地域サロン 音あそびの会たんぽぽ演奏慰問
参加者 2名

令和4年11月 渋川市地域サロン 音あそびの会たんぽぽ演奏慰問
参加者 1名

他コロナ禍によりキャンセルあり。

「協働してつくりだす」

○ 居場所室内DIY

令和3年4月～令和5年3月

長年空き家だったアパートの改修で重要な部分は業者に任せ、壁や外回りの作業
は、社会参加のための訓練材料として残してもらいました。

ペンキ塗り作業、外回りの囲い、玄関周りや物置などは地域の方に指導して
いただきながら一緒に作業を行いました。作業を経験したことで2名が就労に
繋がりました。

「安心安全の居場所」

○ 大きな樹の下で作って食べよう

令和3年4月～令和5年3月

地産地消の野菜を使って、居場所でのランチづくり、時には手作りピザや
厨房の大きなコンロを使ってのパラパラチャーハンづくり。

食べたいもの、チャレンジしたい料理にみんなで挑戦しました。

居場所は生活支援や、自立支援も行っているなので、週3日毎日

昼ご飯を作って食べています。食べられる分を自分で盛り付ける、

使った食器は自分で洗う…これがビーイングのルールです。

みんなで食べる人もいれば、別部屋で一人だけで食べる人もいます。
目標はいつかみんなで一緒に食べられるようになることです。

「生産型の支援」

○ 畑をつくろうプログラム

令和3年4月～令和5年3月

地域の方の協力のもと、様々な野菜を育て収穫しました。
ビーイングハッピーファームと新たに居場所近くの畑(めぶき)を
地元の方から提供していただき、今、2か所の畑で野菜を育てています。
育てた野菜を使って調理し、みんなでおいしく食しています。
農業訓練により、野菜の収穫の就労に2名が繋がりました。

○ 厨房をつかってお弁当を作ろう(カフェ事業)

令和3年11月～令和5年3月

飲食店の営業許可をとり、テイクアウト弁当作りを
就労支援プログラムとして開始しました。
コロナ禍のより地域のイベントなどが実施されず、収穫した野菜を売ること
はできませんでした。飲食店登録しているこの居場所で11月からテイクアウト
弁当を販売しました。
みんなで育てたファームで収穫した野菜がお弁当のおかずとして彩りを添え、
関わった当事者、その家族の生活に新しい息吹が生まれたようでした。
活動が重なるほど、生き活きと笑顔が増え、声も大きくなっていきました。
メニュー決め、お品書きのパソコン打ち込み作業、仕込み、調理、仕上げ作業、
配達準備、配達などの作業が就活準備作業となり当事者、その家族、地域の方々、
行政などの関係機関、多くの方々が賛同し参加してくださいました。
500円で参加してくださる方もいれば0円で参加する方もおります。
誰もが同じお弁当と一緒に食す、おいしいと褒められることで自信をつける、
そして、さらに張り切って作業をする、結果、多くの当事者が就活に繋がりました。
開始当初、お弁当販売数 60食前後でした。1年後には販売数が倍になり、
特注弁当の注文も入るようになりました。

お弁当

居場所参加受益者数

令和3年度 延べ339人
令和4年度 延べ392人

「居場所に繋げるための事業」



○ ひきこもり支援事業

* 令和3年4月～令和4年3月

家庭訪問支援・・・59件

相談業務・・・面談 131件・メール 290件・電話 416件

アプローチ・・・699件

居場所以外の受益者数・・・390人

渋川交流会・相談会・家族会・・・毎月開催、参加者数 62人

富岡交流会・相談会・家族会・・・年6回(コロナで開催できず3回)

参加者参加者 11人

アンケート結果・・・回答率 97.2%

ビーイングの事を知っていたか yes 25% no 60%

交流会に参加してよかった yes 97.2%

* 令和4年4月～令和5年3月

家庭訪問支援・・・31件

相談業務・・・面談 57件・メール 1432件・電話 115件

アプローチ・・・388件

居場所以外の受益者数・・・228人

渋川交流会・相談会・家族会・・・毎月開催、参加者数 59人

富岡交流会・相談会・家族会・・・年4回

参加者数 7人

○ 活動周知事業

就労などを目的とした企業見学を実施する計画であったが、コロナ禍により実施できなかった。(令和4年9月 サポーター3名が事前相談で企業訪問した)
ボランティア募集・・・交流会では常に募集をかけ、2名が参加。

今後の課題

* 40代長期にわたってひきこもっていた方の就労先がない。

* 学歴社会により中卒の採用がない

* 明確に障害者とされない、制度対象外の方への企業側の理解不足

* ビーイングの活動が地域福祉の支援が必要な困窮者、要支援者に
まだまだ周知ができていない現状があります。

自立可能な生産型の支援だけでなく、地域の見守り支援を含めた
食の提供など、今後、展開していきたいと考えております。

まとめ

赤い羽根共同募金会「つくりだす」助成金により新しい形の居場所が出来ました。ここに毎月、行政やひきこもり関係機関がこの居場所に集まり報告会、検討会で情報共有しています。

支援団体だけでなく、多くの関係機関が連携することで支援が必要な方に合った支援をコーディネートすることが早期、社会参加の第一歩に繋がると確信しております。困った方が困っていると言いやすい環境づくりと安心して相談ができる居場所の運営を進めていきたいと考えております。

赤い羽根共同募金会に募金していただいた大切なお金をこの事業の運営のため使わせていただいたことに、心から感謝申し上げますとともに今後も赤い羽根共同募金会の趣旨を守りながら地域福祉のため活動をつづけていきたいと思っております。

そして、一人でも多くの方が笑顔になれるお手伝いが出来ればと思っています。

